

# ICTリテラシーロードマップに基づく取組と 最新の状況を踏まえた今後の方向性について

---

ICT活用のためのリテラシー向上に関する検討会  
事務局

# 1. ICTリテラシーロードマップに基づく取組

---

# ICT活用のためのリテラシー向上に関するロードマップ概要

2

## ● ロードマップの位置付け

検討会の議論を踏まえ、今後の取組の柱を整理した資料であり、短期的又は中長期的に取り組む事項の方向性を整理。

- R5年度においては、「リテラシーの全体像と指標の作成」、「世代共通課題」に対応した教材開発、「AIの活用におけるリテラシーの整理」を実施。R6年度以降においては、「各年齢層の特徴を踏まえた教材開発」等を実施。

## <ロードマップ概要：令和5年6月策定>

### 検討会における議論の全体枠組み（フレームワーク）

#### 目指すべきゴール像

- ① デジタル社会で様々なリスクに対処して安全を確保しつつ、自身の目的に応じて、適切に情報やICTを理解・活用し、課題を発見・解決できること。
- ② デジタル社会の構成員として、他者への影響に配慮し、健全な情報空間確保のための責任ある行動を取ることができること。（情報の批判的受容、責任ある情報発信、プライバシー・著作権への配慮等）
- ③ ICTやオンラインサービス、社会的規範の変化に的確に捉え、①②ができること。

#### リテラシーの全体像と指標の作成

- ゴール像実現のために必要な能力や到達すべき習熟度レベルの整理
- 測定方法としてのリテラシー指標の作成

#### 世代共通課題

- 共通課題の深掘り
- 教材開発
- 届け方の整理（プラットフォーム事業者との連携方策など）

#### AIの活用におけるリテラシーの整理

- AIの特徴及び課題の整理、重点的に取り組むべき能力の検討
- AI向けの教材開発

#### 青少年層

#### 保護者層

#### 高齢者層

#### 対象層の特徴分析

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 教える人材の育成/関係者の取組の連携・協働推進

- 候補者の整理
- 教える人向けの教材のあり方
- 関係者の取組のマッピング
- 関係者の連携方策検討

短期的に  
取り組む  
事項

中長期的に  
取り組む  
事項

#### 継続的に取り組む事項

##### 青少年層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

##### 保護者層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」等を踏まえ、フィルタリング・ペアレンタルコントロール等の青少年のインターネット上のサービス利用を前提とした環境整備を引き続き推進

## <ロードマップ概要：令和5年6月策定>

### 検討会における議論の全体枠組み（フレームワーク）

#### 目指すべきゴール像

- ① デジタル社会で様々なリスクに対処して安全を確保しつつ、自身の目的に応じて、適切に情報やICTを理解・活用し、課題を発見・解決できること。
- ② デジタル社会の構成員として、他者への影響に配慮し、健全な情報空間確保のための責任ある行動を取ることができること。（情報の批判的受容、責任ある情報発信、プライバシー・著作権への配慮等）
- ③ ICTやオンラインサービス、社会的規範の変化に的確に対応し、①②ができること

#### リテラシーの全体像と指標の作成

- ゴール像実現のために必要な能力や到達すべき習熟度レベルの整理
- 測定方法としてのリテラシー指標の作成

#### 世代共通課題

- 共通課題の深掘り
- 教材開発
- 届け方の整理（プラットフォーム事業者との連携方策など）

#### AIの活用におけるリテラシーの整理

- AIの特徴及び課題の整理、重点的に取り組むべき能力の検討
- AI向けの教材開発

#### 青少年層

#### 保護者層

#### 高齢者層

#### 対象層の特徴分析

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

##### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 教える人材の育成/関係者の取組の連携・協働推進

- 候補者の整理
- 教える人向けの教材のあり方
- 関係者の取組のマッピング
- 関係者の連携方策検討

短期的に  
取り組む  
事項

中長期的に  
取り組む  
事項

#### 継続的に取り組む事項

##### 青少年層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

##### 保護者層

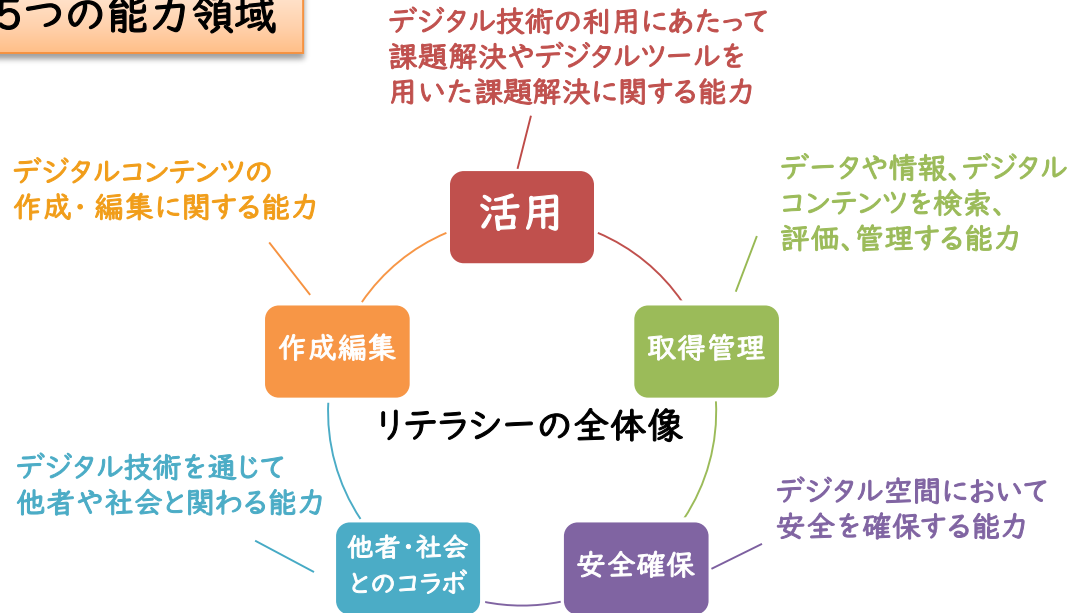
青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」等を踏まえ、フィルタリング・ペアレンタルコントロール等の青少年のインターネット上のサービス利用を前提とした環境整備を引き続き推進

# <R5年度>リテラシーの全体像と指標の作成

これからのデジタル社会において身に付けるべき能力

## 5つの能力領域



## <必要な能力の整理>

海外のフレームワーク※を参考に、身に付けるべき5つの能力領域と、22個の能力に細分化。

※欧州委員会 のデジタルコンピテン্স政策(Dig Comp)や、UNESCO MILカリキュラムなど

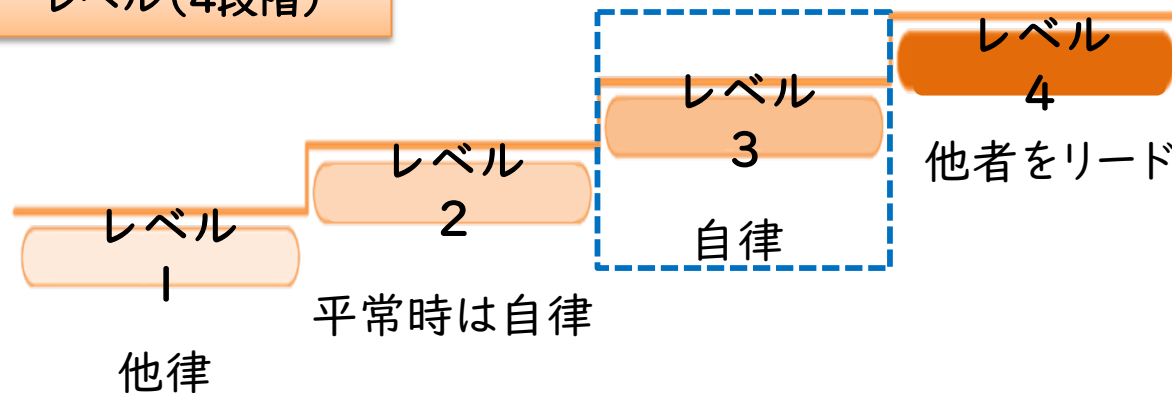
## <到達レベルを把握する指標>

各能力に対して、4段階のレベルを定義し、公表。

## <求められるレベル>

該当の能力について基本的な内容を一通り身につけ、自律的に利用できる(レベル3)。

## レベル(4段階)



# ＜R5年度＞身に付けるべき5つの能力領域及び22個の能力

5

| 能力領域 |                                                   | 偽・誤情報 | 生成AI | 能力  |                                                                          |
|------|---------------------------------------------------|-------|------|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| a.   | データや情報、デジタルコンテンツを検索、評価、管理する能力<br>【取得管理】           |       | ○    | a-1 | 必要な情報を明確にし、検索結果の表示順の仕組みを理解した上で、オンライン上からデータ、情報、及びデジタルコンテンツを見つけ取得する        |
|      |                                                   | ○     | ○    | a-2 | 自分の好みの情報や自分と似た意見に触れやすくなるインターネットの特性を踏まえて、客観的に情報及び情報源の信頼性を分析し、比較し、批判的に評価する |
|      |                                                   |       |      | a-3 | データ、情報、デジタルコンテンツを保存、管理、整理する                                              |
| b.   | デジタル空間において安全を確保する能力<br>【安全確保】                     |       |      | b-1 | 商業目的で個人情報を利用されうることおよびそのリスクを理解した上で、デバイス、デジタルコンテンツ、個人情報、プライバシーを保護する        |
|      |                                                   | ○     | ○    | b-2 | インターネット上の違法・有害情報や偽・誤情報のリスクを理解し対処する                                       |
|      |                                                   | ○     |      | b-3 | インターネット上での不適切な振舞のリスクを理解し対処する                                             |
|      |                                                   | ○     |      | b-4 | 身体的及び精神的な健康を保つ                                                           |
|      |                                                   |       |      | b-5 | デジタル技術とその利用が自然環境に与える影響について理解する                                           |
| c.   | デジタル技術を通じて他者や社会と関わる能力<br>【他者・社会とのコラボ】             |       | ○    | c-1 | デジタル技術を用いて他者と交流しコミュニケーションを取れる                                            |
|      |                                                   | ○     | ○    | c-2 | デジタル技術を活用して、他者と情報やコンテンツを共有できる                                            |
|      |                                                   |       |      | c-3 | 社会活動に有益なデジタルサービスやデジタルツールを利用できる                                           |
|      |                                                   |       |      | c-4 | デジタルツールを利用して、他者とオンラインで繋がりながら作業できる                                        |
|      |                                                   | ○     |      | c-5 | デジタル空間でのコミュニケーションの特性を理解し、多様な背景・環境下にある人々に配慮できる                            |
|      |                                                   |       | ○    | c-6 | デジタル空間における個人情報の対象やその重要性を理解し、適切に管理する                                      |
| d.   | デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力<br>【作成編集】                   |       | ○    | d-1 | さまざまな形式のデジタルコンテンツを作成・編集し、自己表現できる                                         |
|      |                                                   |       | ○    | d-2 | 既存の情報、コンテンツ、知識などを互いに組み合わせ、新しい知識やコンテンツを生み出す                               |
|      |                                                   |       |      | d-3 | 著作権やコンテンツの利用許諾等の各種法令の適用の重要性を意識する                                         |
|      |                                                   |       | ○    | d-4 | コンピュータシステムが問題解決や作業を行うためのプログラム(指示命令)を作る                                   |
| e.   | デジタル技術の利用にあたっての課題解決やデジタルツールを用いた課題解決に関する能力<br>【活用】 |       |      | e-1 | 自らのニーズに合わせてデジタルツールを調整しながら利用できる                                           |
|      |                                                   |       |      | e-2 | デジタル技術に関連するトラブルを特定し、解決する                                                 |
|      |                                                   |       | ○    | e-3 | デジタル技術を活用して、身の回りの課題・社会課題を解決する                                            |
|      |                                                   |       | ○    | e-4 | 自分自身や周囲の人々のデジタルリテラシーを振り返り、能力の向上を目指す                                      |

- ## 世代共通課題

- 総務省特設Webサイト

かいじゅう  
**ネトラ**となかまたち

by 監修者



The illustration features five main characters: a red crab-like robot on the left, a boy in a white shirt and pink shorts, a girl in a white shirt and blue shorts, a woman in a white lab coat with a yellow sash, and a white, round, blob-like character with a large nose and small wings on the right. They are standing in front of a row of small, colorful houses. The background is a light blue sky with white clouds. The text 'かいじゅう' is in a small, black, sans-serif font. The title 'ネトラとなかまたち' is in a large, bold, black, sans-serif font. The text 'by 監修者' is in a smaller, black, sans-serif font.

総務省  
Ministry of Internal Affairs and Communications

## 教材一覽

## 対応力チェックテスト

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| ① <u>フィルターバブル</u>     | ⑨ 責任のリング       |
| ② デジタル・シティズンシップ       | ⑩ デジタル足あと      |
| ③ エコーチェンバー            | ⑪ 認知バイアス       |
| ④ ネット(=インターネット)       | ⑫ <u>情報的健康</u> |
| ⑤ SNS(エス・エヌ・エス)       | ⑬ 誹謗中傷・炎上      |
| ⑥ <u>偽・誤情報</u>        | ⑭ アルゴリズム       |
| ⑦ オーバーシェアリング          | ⑮ 著作権侵害        |
| ⑧ <u>アテンション・エコノミー</u> | ⑯ 肖像権侵害        |



## <ロードマップ概要：令和5年6月策定>

### 検討会における議論の全体枠組み（フレームワーク）

#### 目指すべきゴール像

- ① デジタル社会で様々なリスクに対処して安全を確保しつつ、自身の目的に応じて、適切に情報やICTを理解・活用し、課題を発見・解決できること。
- ② デジタル社会の構成員として、他者への影響に配慮し、健全な情報空間確保のための責任ある行動を取ることができること。（情報の批判的受容、責任ある情報発信、プライバシー・著作権への配慮等）
- ③ ICTやオンラインサービス、社会的規範の変化に的確に捉え、①②ができること。

#### リテラシーの全体像と指標の作成

- ゴール像実現のために必要な能力や到達すべき習熟度レベルの整理
- 測定方法としてのリテラシー指標の作成

#### 世代共通課題

- 共通課題の深掘り
- 教材開発
- 届け方の整理（プラットフォーム事業者との連携方策など）

#### AIの活用におけるリテラシーの整理

- AIの特徴及び課題の整理、重点的に取り組むべき能力の検討
- AI向けの教材開発

短期的に  
取り組む  
事項

#### 継続的に取り組む事項

##### 青少年層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

##### 保護者層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

「青少年の健全なインターネット利用環境の整備に関する新たな課題及び対策」等を踏まえ、フィルタリング・ペアレンタルコントロール等の青少年のインターネット上のサービス利用を前提とした環境整備を引き続き推進

中長期的に  
取り組む  
事項

##### 青少年層

##### 保護者層

##### 高齢者層

#### 対象層の特徴分析

#### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 教える人材の育成/関係者の取組の連携・協働推進

- 候補者の整理
- 教える人向けの教材のあり方
- 関係者の取組のマッピング
- 関係者の連携方策検討

- ・ 青少年、保護者、高齢者の特性を踏まえた、5つの能力領域を網羅する教材を作成。
- ・ デジタル空間の特性の理解を促すことで、新たな問題にも柔軟に対応できる能力を育成。
- ・ 学習者を引きつける要素を用いた効果的なアプローチ手法を活用。
- ・ 学習者向け教材・学習成果の確認ツールに加え、教える人や教材制作者に対するコンテンツを用意。

## ①学習者向け

### 啓発教材

各層の特性や課題に応じた教材での学習を通じて、  
一通りの基本的なリテラシーを習得（5つの能力領域でレベル3水準）

青少年

保護者

高齢者

### 学習成果の確認

リテラシー指標を用いた実践形式の問題演習を通して、  
到達レベル3に達しているか、個人の学習成果を測定

## ②教える人向け

多様な担い手が講義をできるように、教材  
の狙いや指導方法を解説

青少年

保護者

高齢者

## ③教材制作者向け

多様な担い手が教材を作成する際の指針

リテラシー全体像の解説書

## 教材の基本的方向性

### 青少年

- ✓ フィルタリングの意義や重要性をポジティブに理解
- ✓ ネット上の行動における実践ノウハウ、具体的なリスク対処・防御テクニックを短尺動画で手軽に学習

### 保護者

- ✓ こどもと一緒に考えることの重要性を理解
- ✓ ペアレンタルコントロールと家庭内ルールは子どもと一緒に実践できるまでガイド

### 高齢者

- ✓ 社会参加を促す内容
- ✓ 講座を受講しなくとも、自主的に学べる教材として活用

# 「ICT活用のためのリテラシー向上に関するロードマップ」に基づいた取組

9

## <ロードマップ概要：令和5年6月策定>

検討会における議論の全体枠組み（フレームワーク）

目指すべきゴール像

リテラシーの全体像と指標の作成

- ゴール像実現のために必要な能力や到達すべき習熟度レベルの整理
- 測定方法としてのリテラシー指標の作成

世代共通課題

- 共通課題の深掘り
- 教材開発
- 届け方の整理（プラットフォーム事業者との連携方策など）

AIの活用におけるリテラシーの整理

- AIの特徴及び課題の整理、重点的に取り組むべき能力の検討
- AI向けの教材開発

短期的に  
取り組む  
事項

継続的に取り組む事項

青少年層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

保護者層

青少年のインターネット  
利用環境の整備の推進

「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」等を踏まえ、フィルタリング・ペアレンタルコントロール等の青少年のインターネット上のサービス利用を前提とした環境整備を引き続き推進

中長期的に  
取り組む  
事項

青少年層

保護者層

高齢者層

対象層の特徴分析

対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

教える人材の育成/関係者の取組の連携・協働推進

- 候補者の整理
- 教える人向けの教材のあり方
- 関係者の取組のマッピング
- 関係者の連携方策検討

総務省がハブとなり、利用者、プラットフォーム事業者・関連団体等、関係省庁等と連携・協働

- 最新の技術動向やリスクを踏まえ、行動変容を促す教材作成

- 教える人材の育成、確保、派遣

- プラットフォーム事業者等とも連携した、対象層に応じた効果的なアプローチ

- 関係者と継続的に連携方策を検討

## **2. 最新の状況を踏まえた今後の方向性について**

---

- デジタル空間においては、誹謗中傷等の違法・有害情報に加え、人々の関心・注目の獲得が経済的価値となるアテンション・エコノミーの下で、偽情報・誤情報の流通・拡散や、過激なタイトルや憶測だけで作成されたコンテンツの流通・拡散も社会問題化。
- 総務省では、「デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会」を2023年11月から開催。2024年9月、総合的な対策として様々な関係者の連携・協力の下で、迅速かつ効果的・効率的に対応を進めていくことが必要との提言をとりまとめ。

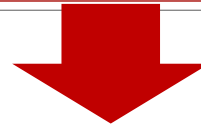
主な提言内容

制度的な対応

普及啓発・リテラシー向上

技術の研究開発・実証

など



## 総合的なリテラシー向上に向けて

- 官民の幅広い関係者による協働の下、リテラシー向上のための取組を継続的に実施し、社会的機運を醸成することが重要ではないか。

考えられる視点

### ① 対象世代に応じた多様な普及啓発

高齢者・保護者・青少年・子どもが持つべきリテラシーを、関係者が連携・協力して普及啓発することが重要ではないか

### ② SNSサービスの利用時の注意喚起等

SNSの画面上での注意・警告等、サービス設計上の工夫を通じた啓発の実施を推進してはどうか

### ③ 信頼性の高い情報の優先表示

信頼性の高い情報が偽・誤情報等に埋もれないようSNS等のサービス上で優先的に表示するなど検討してはどうか

## 考え方のポイント

- 幅広い世代がICTリテラシーを身につけ、ロードマップの【目指すべきゴール像】に到達することが前提になるのではないか。

### <目指すべきゴール像>

- ① デジタル社会で様々なリスクに対処して安全を確保しつつ、自身の目的に応じて、適切に情報やICTを理解・活用し、課題を発見・解決できること。
- ② デジタル社会の構成員として、他者への影響に配慮し、健全な情報空間確保のための責任ある行動を取ることができること。(情報の批判的受容、責任ある情報発信、プライバシー・著作権への配慮等)
- ③ ICTやオンラインサービス、社会的規範の変化に的確に捉え、①②ができること。

- 加えて、デジタル空間で顕在化する具体的な課題(例えば、偽・誤情報等)についても、利用者へ普及啓発するのが良いのではないか。
- 関係省庁・関係事業者・関係団体等が連携して、継続的に普及啓発できる仕組みを検討していく必要があるのではないか。

## 考えられる方策（例）

- 普及啓発教材等の充実やさらなる活用
- 多様な企業・団体や関係省庁によるセミナー・シンポジウムの開催
- 利用者への情報・普及啓発のハブとなるリテラシー向上サイトの充実
- PF事業者のサービス設計上の工夫等の充実や社会への周知

※セーファーインターネットデー（2025年2月11日）の機会などもうまく活用しつつ、普及啓発することが効果的か

1. ICTリテラシー向上の前提とすべき社会的な事象、動向、課題について
2. 現在の状況を踏まえて、特に重点的に取り組むべき課題について
3. 社会的機運を高めるために、効果的な方法について